

南太平洋の島ツバル



● 「南太平洋の島ツバル」について

- ・左の大きな写真は大潮のときの満潮時、右の写真はふだんの同じ場所です。
- ・海水面の上昇は、目に見える浸食の他に、地下水に海水が流れ込み、飲み水がなくなる、土中に海水がしみ込み作物を枯らす、そして島そのものが水没するなどの被害をもたらします。
- ・2002年3月オーストラリアで行われた英連邦首脳会議の記者会見の席上、コロア・タラケ首相が、地球温暖化防止京都議定書締結国であるアメリカ合衆国、カナダ、オーストラリアのメジャー企業を訴える準備をしていると述べたとの報道がされました。
- ・ツバルは間もなく人が住めない島、海底に沈む国になるといわれています。ツバルの国民は移住せざるを得ない状況下に置かれています。

ツバルは、9つの珊瑚島（珊瑚の島）からなる南太平洋に浮かぶ海拔平均約2mの小国。すべての島をあわせても、面積は26km²（品川区と同じくらい）、約10,000人が住み、漁業や農業を中心に生活しています。

ポイント1 平常時と大潮時のツバルの写真を比べることにより、満潮時には海水が住宅地まで侵入してくること、地中から海水が噴出していることを知らせます。

ポイント2 満潮時の写真から、ツバルの人はどんなことに困っているかを予想させます。

- ①砂浜の樹木が倒れることにより、さらに住宅地まで海水が侵入します。
- ②道路が寸断され、何度直しても再度寸断されてしまいます。
- ③洪水の塩害により、井戸から海水がわき出し、飲料水がなくなります。
- ④海水の塩分が作物を枯らし、食料がなくなってしまいます。
- ⑤数十年後には、島自体が水没してしまいます。

ポイント3 対策を予想させ、次の2つを知らせます。

- ①労働移住の形ではあるが、ニュージーランドと国民移住制度があること。
- ②地球温暖化防止京都議定書締結国の企業を訴える提案がされていること。

「南太平洋の島ツバル」を活用した授業

「エネルギー学習スキル」の利用

1. ツバルは、将来、人が住めない国になることを授業

地球温暖化による海面上昇で、将来、人々が住めなくなる国（島）であること、その結果、他国への移住、地球温暖化防止京都議定書締結国の企業を訴えることを考えている国があることを理解する好教材です。

2. 地球の温暖化について調べる

「南太平洋の島ツバル」を提示し、ワークシートに記入後、洪水の原因は地球温暖化であることを知らせます。そして、「エネルギー学習スキル」p27「地球の地上温度の上昇」で地球温暖化について調べさせます。

p27をすべて音読した後、「地球の温度が2度ぐらい上昇したらどのように困ったことになるか」を書かせます。

3. 海面上昇以外に起きることについて調べさせる

地球温暖化は海面上昇だけではなく、様々な事象を起こすことをp28「地球温暖化で起きること」で学び、地球温暖化が起こす具体的な事例を調べさせます。

4. ツバルの対策について学ぶ

温暖化防止京都議定書についてp30「COP3（京都議定書）で決めたこと」で、日本の削減目標、さらに、地球温暖化防止京都議定書に締結しなかった国を調べます。ツバルが、訴訟を検討している相手国である「アメリカ、オーストラリア、カナダ」に共通することは何か考えさせます。

p27「地球の地上温度の上昇」で「地球の温度が2度ぐらい上昇すると困ること」を書かせる前に、「南太平洋の島ツバル」の2枚の写真比べて、わかったこと、気づいたこと、思ったことをシートに箇条書きさせます。

p28「地球温暖化で起きること」で調べた後、「南太平洋の島ツバル」ワークシートで、より具体的に書かせます。

p30「COP3（京都議定書）で決めたこと」で、地球温暖化防止京都議定書に締結しなかった国と、ツバルが訴訟を検討している相手国との関連を教えます。

「南太平洋の島ツバル」ワークシートの答え

1. (例)
 - ・同じ場所だ。
 - ・1枚は普通の日、もう1枚は洪水。
 - ・1枚は干潮。もう1枚は満潮。
 - ・ツバルは海拔が低い。など
2. (例)
 - ・砂浜の樹木が倒れる。
 - ・道路が崩壊する。
 - ・家に住めなくなる。(家が水没する)
 - ・飲料水がなくなる。(飲料水に海水が混ざる)
 - ・食料がなくなる。(穀物などの根が腐る。野菜が腐る)
3. (例)
 - ・島が水没する。など
 - ・堤防を作る（珊瑚礁の島のため、堅固な堤防を作ることができない）
 - ・移住（ニュージーランド政府との間で、環境難民としてではないが、移住制度はすでにある）
 - ・地球温暖化防止京都議定書締結国に対して賠償を求める。(アメリカの数人の弁護士から、企業を訴えようという提案がされている)